

＜学校教育目標＞自ら考え、主体的に判断し、行動する、心豊かで心身ともにたくましい子どもの育成

め の と



3月 弥生

長崎市立女の都小学校 学校だより

卒業号

令和4年3月17日 文責 校長：松田伊知郎

＜めざす児童像＞

① あてを立ててすすんで学ぶ子

② そみをもってたくましく生きる子

③ もだちとみがきあう思いやりのある子

11年前の3月11日に起きた東日本大震災では、想定外の災害規模に驚愕し、『何気ない日常』の幸せを思い知ることになりました。また、コロナ禍のこの2年間では、これまで過ごしてきた『通常』という感覚がこれからは通用しないことを改めて感じました。私たちはこれらの教訓を糧にし、新しい未来を切り拓いていかねばなりません。小学校就学時における教育は、新しい未来の中心となって活躍していく今の子供たちを育てていく尊い行いです。御家庭によるお子様の教育を、学校や地域が支えながら、より確かなものにしていきたいと思ひます。



～ 感 謝 ～



3月は感謝を伝える月間でした。『感謝』は『思い』であることから、そのものが眼に見えるものではありません。私たちは日頃、「表情」「態度」「言葉」などによって『思い』を目に見える形で表出することで伝えるようにしています。言い方を変えると、いくら『よい思い』を抱いていたとしても、表出させなければ自分以外には伝わらないということでもあります。

本校では、学校の生活目標の一つとしたことから、全校を挙げて全学年で取り組んできました。各学級で教師からの話があったり子供同士の話合いがあったりして、教室内外で「ありがとう」の言葉が飛び交うようになりました。委員会活動では、「ありがとうメッセージ」を投函するボックスを作ったり感謝の言葉を放送で紹介したりして、自分では気付かないところにある「ありがとう」に気付く工夫もなされました。卒業生からは、本校全職員と、交通安全指導などでお世話になっている地域の方々に『感謝状』が渡されました。私もいただきましたが、サプライズであったことと温かみがある文面に、感激の涙が出そうになりました。

こちらこそ、幸せな日々をありがとうございました。

～ 節 目 に あ た っ て ～



卒業は人生の大きな節目です。一つの課程を終えることを意味しますが、『今の終わり』は『次の始まり』でもあります。別れを悲しむ気持ちは当然ありますが、それよりも、晴れの門出をみんなが笑顔で祝い、次の希望に胸を膨らませたいものです。女の都小学校の今年度の終末にあたり、特に卒業生には「自身の夢を叶える」という強い思いと、周囲との「繋がり」や「絆」を更に強固にする気持ちを大切にしてほしいと思っています。自分の思いを受け止めてくれる人や後押ししてくれる人がいることを確認し、その絆を大事にしてほしいと願ひます。自分を取り巻く社会はどんどん広がっていきます。自分の人生を仲間と共に力強く切り拓いてほしいものです。

裏面の『贈る言葉』は「卒業の栞」に載せたものと同文です。式典では、同様の内容を、言葉を変えてこれよりも短く話をしました。

～ 贈 る 言 葉 （ 校 長 式 辞 ） ～

春の柔らかな日差しと風が心地よい時節となりました。本日、長崎市立女の都小学校第46回卒業証書授与式を挙行できますことを、皆様と共に喜びたいと思います。

卒業証書授与式は、文字どおり教育課程の卒業証書を受け取り、それをみんなで祝う式典ですが、卒業生がこれまで支えてもらった御家族や地域の皆様への感謝の念を体現する絶好の機会でもあります。多数の御来賓の皆様にも御臨席を賜りたいところでしたが、来場を御遠慮いただくこととなり残念でなりません。また、本日の式典には5年生に在校生代表として参加してもらい、1～4年生には集会や普段の生活の中で互いの思いを表現するようにしてきました。卒業生にも在校生にも、そして御家族や御来賓としておいでいただく予定であった皆様にも、大変窮屈な思いをさせてしまいましたこととお詫び申し上げます。

さて、卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。世の中は未来志向の考え方で様々なことが進み、本校でも行事の改革、クロムブックを使った学習などを行っています。皆さんもこれらの新しい活動を意欲的に進め、活躍してきました。修学旅行では、長崎の歴史や自然、文化を直に感じることで、これからの自分やふるさとのことを考えることができました。重点努力目標だった「にこにこ笑顔いっぱい 女の都小」や「にこにこわくわく」についても、委員会活動における企画や縦割り活動、クラブ活動などを通して実践し、笑顔を増やしてくれました。普段の挨拶や返事、生活の様子も爽やかで、下級生もあなた方の姿で学ぶことができました。とても素晴らしい最上級生でした。本当にありがとうございました。

本日、皆さんの卒業に際し、私から言葉を贈ります。それは、「己を信じ、苦境に挫けず、将来を語り、夢を叶えよ」ということです。皆さんは様々なことに熱心に取り組み、初めてやることや難しいことにも挑戦し、それをクリアしてきました。そんな自分を誇りに思ってください。その誇りを自信に代え、また新たな挑戦をしてください。今後はこれまでよりもきついことがあるかもしれませんが、皆さんなら大丈夫です。きっと、それを乗り越えて夢を叶えることができるはずです。そして、「叶える」ためにも、自らポジティブな思いを発して努力し続け、皆さんの周りにいる大人や友達と将来を語り合ってください。自分の強い思いと努力を、周囲との繋がりや絆が後押ししてくれ、一步一步、夢の達成が近づいてくるはずです。

保護者の皆様におかれましては、お子様の心身の成長を直に感じ、感慨もひとしおのことと拝察いたします。小学校においては、本年度も教育活動全般で実施が難しいことや制限が多々ありましたが、その全てで御理解と御協力をいただき、誠にありがとうございました。夏の「親子レクリエーション」では、制限がある中、どのように知恵を絞って実現させていけばよいかを、身をもって示していただきました。子供たちも、その様子を見て、具体的に「困難に負けずに夢を叶える」イメージをもつことができたと思います。御家庭においても、お子様とともに笑顔で過ごした12年間だったことと思いますが、時にはともに悩んだり泣いたりしたことがあったかもしれません。その様々な思い出全てを力にして、お子様は次のステージへ進むにあたっての決意を壇上で立派に述べてくれました。今後の軌道修正はあるかもしれませんが、きっと自分の思いをもった輝かしい未来に続いていくものと思います。これからも、そんなお子様の思いを受けとめる一番の存在であってください。

卒業はめでたい別れです。卒業生の明るい未来に向けて、私も自信をもって笑顔で送り出したいと思います。改めて、御卒業おめでとうございます。